

法華寺だより

令和5年10月15日 242号

宗祖報恩お会式法要

(10月15日、午前10時 より)

742回お会式

寿ぐときは賑やかに、偲ぶときは厳かに

苦楽ともに思い合わせのお会式



常陸の湯で長年の疲れを癒やす目的で身延を下山したのが9月8日。18日に池上宗仲の屋敷に到着するも10月13日遷化。死の寸前まで後継者の育成に全力で取り組んだそうです。

死を悼むお会式の様式も時代と共に移り変わり、池上本門寺や身延山などで見られる華やかなものも戦後間もなくしてから始まったそうです。

日蓮宗のお経

観音様あれこれ ?

法華経第25品では、観音様が33もの姿に変化し、私たちの様々なピンチを救って下さると説かれています。「貪欲、愚かさ、怒りという心の暴走すら止めてくれる」更に「福德の子を授けてくれる」「火難・水難などあらゆる災いから救ってくれる」。誠にありがたい御教えです。難点があるとすれば、困った時に慌ててお願いしても無理でしょうね。この世の中には余りにも多くの願い人がいるのですから。

観音様に高価なプレゼントをした方(ある菩薩)がおられたそうです。観音様はそれを受け取るやいなや二つに分けて、お釈迦様と多宝如来様に捧げたそうです。

世間の人々が先ず第一に感謝し尊ばなければならないのは、私(観音)でなくてこの法華経を説かれた久遠のお釈迦様なのですよ示された。

今月の聖語

深く世法を

識れば則ち

是れ仏法なり

日蓮聖人ご遺文

「開目抄」より

＝ 答えはあなたの足下に＝

「チルチルとミチルはの兄妹は、幸せの青い鳥を探し求めて旅に出ますが、結局見つけたのは我が家の鳥かごでした」

ところで、仏法において「幸せとは」何でしょう？
あなたは「すでに答えの上に立っている」のです。

日蓮聖人は「南無妙法蓮華経を信じ唱えることが、今を受け入れる姿です」。

どんな状況にあらうと、今のあなたを全て受け入れなさい（しっかり見つめ直すこと）。それが世法と仏法が合致するところです。あなたを取り巻く課題にも関わらず、他人事のように流されていた事に気付くことが有れば、その時点からでも最善を尽くすことです。

◇眼施（げんせ）… 「六波羅蜜」という仏道修行があります。その一つに「布施」、お金が無くても出来る「無罪の七施」ということが説かれています。その一つが「眼施（げんせ）」です。慈しみの優しい目は人を救います。でも常に慈しみに満ち心優しい人は余り居ないかもしれませんが、慈しみ心優しく有りたいと心掛けている人は数多くいると思います。自分の思いや行動と違う人と生活行動していれば怒りの目や悲しみの表情が生じて当たり前です。でも、社会生活をしている人の大部分は自分の思いや行動と一致しないに共同生活をしているのはそれによって得られる何らかの利益が大きいのだと思います。

人は気付かない内に慈しみの優しい目を他人に向けているのではないかと思います。その逆に気付かないことがあります。未熟な人間どうしなんです。余り根に持たないことです。

＝山崎＝